



プレスリリース

インフォシス、国際テニス殿堂に向けテニスの伝統をデジタルで再創造

インフォシスは国際テニス殿堂のデジタルイノベーションパートナーとして、

世界のテニスファン向けに試合の新たなデジタル体験・メタバース博物館によりデジタル未来を再定義します。

ロードアイランド州ニューポート、2022年7月15日：次世代デジタルサービス・コンサルティング世界大手の[インフォシス](#) (NSE, BSE, NYSE: INFY) は本日、7月10 – 17日まで当地で開かれる「インフォシス名誉の殿堂オープン」で、ファンが観戦体験を強化するよう設計された新しい没入型デジタル体験のほか、国際テニス殿堂 (ITHF) と協力し、メタバースにおける技術革新のロードマップを公表すると発表しました。

ウェブ3.0、メタバース、クラウド、AIの台頭を控え、スポーツ業界が急速に進化するなか、インフォシスは、ITHFと協力し、ITHF博物館へのファン、選手、訪問者のために以下サービスを提供します。

a. 対戦ウェブサイトのデジタル刷新と全く新しい試合センター

インフォシス名誉の殿堂オープンは2022年から、世界のファンがトーナメントの試合にアクセスし、その強力なデータから洞察を得るため、全く新しい試合センターを設けます。同センターの特徴は：

- 1. MatchbeatsとAIクイズ:** Matchbeatsは双方向性のライブ観戦で、試合が展開するなかファンに興味深いポイントごとの洞察を提供します。その中にあるAI搭載の洞察セクションは、ブース内のコメンテーターと同様の試合状況の解説を提供します。各セット後、ファンはそのセットから得た統計を基にしたAIクイズを楽しめます。
- 2. 完全自動のライブ解説:** インフォシスのテニスプラットフォームは、各試合についてファンに完全自動化されたテキストベースのライブ解説を提供し、試合の流れを追うにあたり、別の次元から深い見解も得られます。

3. **統計、試合の実況、スコア:** トーナメントのウェブサイトは最新のスコアで更新され、結果のセクションに自動的に反映されます。各試合の統計は試合の状況だけでなく AI 論理に基づいて情報を重要度で分別し、その試合についての奥深い物語を提供します。

b. **没入型 ITHF メタバース博物館:** インフォシスと ITHF は、歴代優勝者や伝統ある歴史を称える目的でスポーツの伝統保全に向けた取り組みも初めており、世界のファンがアクセスできる没入型 ITHF メタバース博物館を開設します。

ITHF で選ばれるゲストは今年、Oculus VR ヘッドセットを、公開に先駆けて体験できる機会を得ることになります。完了したプロジェクトをファンが経験できるのは 2023 年で、ウェブと VR バージョンをご用意する予定です。

インフォシス社長の Ravi Kumar S は、「ITHF の年次 ATP トーナメント「インフォシス名誉の殿堂オープン」の公式デジタルイノベーションパートナー、タイトルスポンサーとして、テニスを通じて新しいフロンティアを開拓し、デジタルイノベーションをもたらすことにワクワクしています。本オープンで、未来志向のイノベーションを披露し、インフォシスのテニスプラットフォームを活用し、ファンのために忘れがたい体験を提供し、テニスのコミュニティ全体を盛り上げます。」と述べました。

ITHF の CEO, Todd Martin 氏 は、「インフォシスと提携し、テニスコートの内外で ITHF 体験をデジタル変革し続けることを誇りに思います。本提携関係は、インフォシス名誉の殿堂オープンの熱気にファンを取り込み、デジタル、没入型体験を介して世界のファンにテニスの歴史へアクセスを提供するなか、楽しく新しい機会を提示します。」としています。

詳細は infosyshalloffameopen.com をご覧ください。インフォシスと ITHF の提携関係については infosys.com/ITHF をご覧ください。

国際テニス殿堂 (ITHF) について

ITHF は非営利団体で、テニスの歴史を保全・促進し、歴代優勝者を称えることにより、テニスの世界的な成長に不可欠なパートナーとして貢献しています。ITHF は米国ロードアイランド州ニューポートを拠点とし、世界 27 カ国が殿堂入りしています。当地にある包括的的双方向性の博物館ではテニスのレジェンド、歴史を称え、世界でテニスを祝うようプログラムしています。詳細はこちらをご覧ください。 tennisfame.com。

インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーで、30 万人強の社員が人間の潜在性を拡大し、人、企業、地域社会のための次の事業機会を構築するべく、日夜取り組んでいます。グローバル企業のシステム・業務管理における 40 年以上の実績に基づき、インフォシスは専門家として世界 50 以上で顧客をクラウドによるデジタル変革へと導いています。企業に対して AI によるコアを付与し、大規模なアジャイルデジタルで事業を強化すると

ともに、デジタル・スキル、専門知識、及びインフォシスのイノベーション・エコシステムから生まれるアイデアを通して常に自ら学習することで、継続的な改善を進めていきます。当社は、包括的な職場で多様な人材が輝く、健全に統治され環境的に持続可能な組織であることに全力を注いでいます。

インフォシス (NSE, BSE, NYSE: INFY) が 御社の次の未来への歩みにどのように貢献できるか、詳細は www.infosys.com/jp をご覧ください。

免責条項

本リリースの記述は、当社の将来的な成長や財務予測、COVID-19 による従業員や顧客、利害関係者への影響の管理計画など、1995 年私募証券訴訟改革法の「免責」条項に規定される「将来予想に関する記述」が含まれています。これらの記述は、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、COVID-19 に関連するリスクと不安定要素およびその拡散を抑制するための政府やその他の対策の効果、インドや米国その他諸国における経済の悪化や景気後退に関するリスク、政情や業況、経済情勢の変化、利益の変動、外国為替レートの変動、当社の成長管理能力、当社のコスト優位性に影響を与え得る要因を含む IT サービス分野における競争の激化、インドでの人件費高騰、高い技能を持つ専門的な人材を採用し維持する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野のテクノロジーに対する需要の低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、当社が戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切りまたは終了、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢、訴訟や政府による調査の結果などがありますが、これらに限定されません。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクの詳細については、2020 年会計年度（2021 年 3 月 31 日付）年次報告書（Form 20-F）を含め、米国証券取引委員会に提出された当社報告書に記載されています。これらの報告書は www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、当社が随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ先

日本支店 マーケティング本部長

安藤 jo_ando@infosys.com